

計画（案）新旧対照表

資料2

No.	項目等 (ページ)	旧記載 (3/23 パブリックコメント実施時)	新記載 (5/29)	変更理由
1	(P4) 1つめの○	○ 2021年の本県の自殺者数は、警察庁統計によると1,188人となっています。 本県の自殺者数の推移を見ると、1998年に前年の1,115人から1,579人へと約1.42倍に急増し、以降、2013年までは1,500～1,600人前後で推移し、2014年以降は6年連続で減少して1,100人を下回りましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、2020年以降2年連続で増加しています。	○ 2022年の本県の自殺者数は、警察庁統計によると1,200人となっています。 本県の自殺者数の推移を見ると、1998年に前年の1,115人から1,579人へと約1.42倍に急増し、以降、2013年までは1,500～1,600人前後で推移し、2014年以降は6年連続で減少して1,100人を下回りましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、2020年以降3年連続で増加しています。	
2	(P4) 〔自殺者数の年次推移（愛知県）〕 〔自殺者数の年次推移（愛知県）〕	—	2022年の数値を追加。	
3	(P5) 《参考：各種統計資料における自殺者数・自殺死亡率の推移（愛知県・全国）》	—	2022年の数値を追加、全国順位を変更。	
4	(P6) 1つめの○	○ 本県の自殺者数を他県と比較すると全国第4位ですが、自殺死亡率（人口10万対）で比較すると第40位です。	○ 本県の自殺者数を他県と比較すると全国第5位ですが、自殺死亡率（人口10万対）で比較すると第39位です。	
5	(P6) 〔自殺者数の都道府県比較（2021年）〕 〔自殺死亡率（人口10万対）の都道府県比較（2021年）〕	—	2022年の数値に変更。	
6	I はじめに 2 愛知県の自殺の現状 (P7) 1 男女別の状況 2 年代別自殺者数	1 男女別の状況 ○ 本県の2021年における自殺者数1,188人のうち、男性が776人で65.3%、女性は412人で34.7%となっており、女性の自殺者数は2020年以降2年増加しています。 2 年代別自殺者数 ○ 本県の2021年における年代別自殺者数は、40歳代（221人）が最も多く、次いで50歳代（215人）、70歳代（177人）となっています。	1 男女別の状況 ○ 本県の2022年における自殺者数1,200人のうち、男性が802人で66.8%、女性は398人で33.2%となっており、女性の自殺者数は2020年以降増加傾向です。 2 年代別自殺者数 ○ 本県の2022年における年代別自殺者数は、50歳代（230人）が最も多く、次いで40歳代（217人）、20歳代（156人）となっています。	国から最新の数値の提供に伴い、記載内容等を変更したため。
7	(P7) 〔年代別自殺者数（愛知県2021年）〕	—	2022年の数値に変更。	
8	(P8) 3 年代別自殺者の原因・動機別状況 1つめの○ 2つめの○	○ 本県の2021年における年代別自殺者の原因・動機別割合をみると、年齢が上がるとともに健康問題が多くなっており、60歳以上の年代では50%以上を占めています。 ○ 10歳代では、「学校問題」に次いで、「不詳」が多くなっています。	○ 本県の2022年における年代別自殺者の原因・動機別割合をみると、年齢が上がるとともに健康問題が多くなっております。 ○ 20歳未満では、「学校問題」に次いで、「家庭問題」が多くなっています。	
9	(P8) 〔年代別自殺者の原因・動機別割合（愛知県2021年）〕	—	2022年の数値に変更。	
10	(P8) 3 年代別自殺者の原因・動機別状況 自殺の原因・動機別に係る集計について	—	(参考) 自殺の原因・動機に係る集計については、家族の証言等から自殺の原因・動機と考えられるものについて、原因・動機を4つまで計上可能としているため、原因・動機特定者の原因・動機別の和と原因・動機特定者数とは一致しません。	自殺の原因・動機別に係る集計方法を明確に示すため。

No.	項目等 (ページ)		旧記載 (3/23 パブリックコメント実施時)	新記載 (5/29)	変更理由
11		(P9) 4 職業別の状況	4 職業別の状況 ○ 本県の2021年における職業別の状況をみると、無職者が全体の半数以上を占めています。続いて、被雇用者・勤め人となっています。	4 職業別の状況 ○ 本県の2022年における職業別の状況をみると、無職者が全体の半数以上を占めています。	
12	I はじめに 2 愛知県の自殺の現状	(P9) 〔職業別自殺者の割合 (2021年) 〕	—	2022年の数値に変更。	国から最新の数値の提供に伴い、記載内容等を変更したため。
13		(P9) 〔新型コロナウイルス感染症拡大下 (2020年、2021年) の自殺者数増減率 (過去5年平均との比較) 〕	—	2022年の数値を追加。	
14	I はじめに 3 自殺や自殺対策に関する基本認識	(P11) 2 自殺は、その多くが防ぐことができる社会的な問題 2つめの○	○ 自殺はその多くが追い込まれた末の死であり、その多くは防ぐことができる社会的な問題であるとの基本認識の下、自殺対策を、生きることの包括的な支援として、社会全体の自殺リスクを低下させるとともに、一人ひとりの生活を守るという姿勢で展開する必要があります。	○ 自殺はその多くが追い込まれた末の死であり、その多くは防ぐことができる社会的な問題であるとの基本認識の下、自殺対策を、生きることの包括的な支援として、社会全体の自殺リスクを低下させるとともに、 <u>全ての人がかけがえのない個人として尊重され、一人ひとりの生活を守るという姿勢で展開することが必要</u> です。	パブリックコメント意見を踏まえて修正。
15	III 自殺を防ぐための対策 1 対策の基本的な考え方	(P22) ② 特に配慮が必要な方への対策	ライフステージに共通あるいは、区分できない自殺リスクの高い集団に対するの対策を推進します。加えて、そうした方を支える家族等の支援を含めて推進します。	ライフステージに共通あるいは、区分できない自殺リスクの高い方に対するの対策を推進します。加えて、そうした方を支える家族等の支援を含めて推進します。	他の記載か所との統一を図るため。
16	III 自殺を防ぐための対策 2 ライフステージ別対策	(P23) ・ 女性	本県の女性の自殺者数は2020年以降2年連続増加しており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により女性特有の課題が顕在化し、女性の自殺リスクが高まっていると考えられます。	本県の女性の自殺者数は2020年以降増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により女性特有の課題が顕在化し、女性の自殺リスクが高まっていると考えられます。	
17	III 自殺を防ぐための対策 2 ライフステージ別対策	(P26) 学校における様々なストレス <現状・課題> 1つめの○	○ 全国の2021年の20歳未満の自殺の原因・動機を見ると、健康問題の次に学校問題が多くなっています。また、学校問題の内訳を見ると、学業不振や進路に関する悩みが大半を占め、続いて、学友との不和やいじめとなっています。	○ 全国の2022年の20歳未満の自殺の原因・動機を見ると、 <u>学校問題の次に健康問題が多くなっています。また、学校問題の内訳を見ると、学業不振や進路に関する悩み (入試以外) が大半を占め、続いて、学友との不和 (いじめ以外) となっています。</u>	国から最新の数値の提供に伴い、記載内容等を変更したため。
18	III 自殺を防ぐための対策 2 ライフステージ別対策	(P26) 〔20歳未満の自殺者における原因・動機別状況 (全国2021年) 〕	—	2022年の数値に変更。	
19	III 自殺を防ぐための対策 2 ライフステージ別対策	(P27) <今後の取組>①	① 個々の児童生徒の資質や能力に応じたきめ細かな教育、指導が実施できるよう、少人数教育の充実や授業の改善に取り組むとともに、教員の資質向上を図ります。《教育委員会》	① 個々の児童生徒の資質や能力に応じたきめ細かな教育、指導が実施できるよう、少人数教育の充実や授業の改善、 <u>教員不足の解消</u> に取り組むとともに、教員の資質向上を図ります。《教育委員会》	パブリックコメント意見を踏まえて修正。
20	III 自殺を防ぐための対策 2 ライフステージ別対策	(P48) (3) 高齢期の取組 1 行目	愛知県の2021年の年代別自殺者数をみると、60歳以上が408人で全体の34.3%となっています。	愛知県の2022年の年代別自殺者数をみると、60歳以上が <u>395人</u> で全体の <u>32.9%</u> となっています。	国から最新の数値の提供に伴い、記載内容等を変更したため。

No.	項目等 (ページ)	旧記載 (3/23 パブリックコメント実施時)	新記載 (5/29)	変更理由	
21	Ⅲ 自殺を防ぐための対策 2 ライフステージ別対策	(P50) <現状・課題> 一つ目の○	○ 2021年の60歳以上の自殺者408人のうち、「健康問題」が動機の一つとされた人数は302人であり、約7割以上の方が「健康問題」を原因としていることが分かります。	○ 2022年の60歳以上の自殺者395人のうち、「健康問題」が動機の一つとされた人数は365人であり、約9割以上の方が「健康問題」を原因としていることが分かります。	
22	Ⅲ 自殺を防ぐための対策 3 特に配慮が必要な方への対策	(P52) (1) 精神疾患患者 1行目	2021年の本県の自殺者の原因・動機を見ると、最も多いのが「健康問題」となっており、その内訳は、約6割が「うつ病」や「統合失調症」などの「精神疾患」となっていることから、精神疾患は自殺リスクが極めて高い危険因子と考えられます。中でも「うつ病」が最も多く、うつ状態にある人の早期発見、早期治療を図ることが重要となります。	2022年の本県の自殺者の原因・動機を見ると、最も多いのが「健康問題」となっており、その内訳は、約6割が「うつ病」や「統合失調症」などの「精神疾患」となっていることから、精神疾患は自殺リスクが極めて高い危険因子と考えられます。中でも「うつ病」が最も多く、うつ状態にある人の早期発見、早期治療を図ることが重要となります。	
23		(P56) (2) 自殺未遂者 <現状・課題> 一つ目の○	○ 2021年における自殺者の自殺未遂歴の有無をみると、自殺未遂歴「あり」の者の割合は、男性15.2%、女性27.9%となっています。男性ではどの年代においても自殺未遂歴「あり」の者は1～2割程度であることに對し、女性では、20歳代、30歳代において4割を超えており、男性に比べ女性のほうが高くなっています。	○ 2022年における自殺者の自殺未遂歴の有無をみると、自殺未遂歴「あり」の者の割合は、男性14.6%、女性36.2%となっています。男性ではどの年代においても自殺未遂歴「あり」の者は1～2割程度であることに對し、女性では、 <u>20歳未満においては6割を超えるなど</u> 、男性に比べ女性のほうが高くなっています。	
24		(P56) [2021年における自殺未遂歴の有無別性別年齢階級別自殺者の割合 (愛知県)]	—	2022年の数値に変更。	国から最新の数値の提供に伴い、記載内容等を変更したため。
25		(P59) [自殺の原因・動機別内訳 (愛知県)]	—	2022年の数値に変更。	
26		(P61) (4) 生活困窮者・多重債務者 <現状・課題> 一つ目の○	○ 本県の2021年の自殺者のうち、原因・動機別における「経済・生活問題」の内訳をみると、生活苦は約37%、多重債務は約13%となっており、生活苦及び多重債務は自殺の大きな要因となっています。	○ 本県の2022年の自殺者のうち、原因・動機別における「経済・生活問題」の内訳をみると、生活苦は約31.0%、多重債務は約11.9%となっており、生活苦及び多重債務は自殺の大きな要因となっています。	
27	(P61) [原因・動機別における「経済・生活問題」の内訳 (愛知県2021年)]	—	2022年の数値に変更。		
28	(P62) [多重債務による自殺者数 (愛知県)]	—	2022年の数値に変更。		
29		(P67) (6) 女性 1行目	本県の女性の自殺者数は2020年以降2年連続増加しており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により女性特有の課題が顕在化し、女性の自殺リスクが高まっていると考えられます。	本県の女性の自殺者数は2020年以降増加傾向にあり、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により女性特有の課題が顕在化し、女性の自殺リスクが高まっていると考えられます。	
30	Ⅲ 自殺を防ぐための対策 4 その他の保護因子を高める対策	(P69) (1) 相談体制の整備・相談窓口の周知 <現状・課題> [相談実績 (2021年度)]	—	— 相談実績について最新の数値 (確定値) に修正。	